

日本文化への関心を高める空間の提案 簡易的に組み立て・収納ができる茶室

Proposal of space to increase the interest in Japanese culture A simple assembled tea room

学生氏名 鳥居 虎太郎
指導教員 比留間真
サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 空間・工業意匠デザイン研究室

近年、海外から様々な分野で日本文化に対する注目度が高まっている。しかし、自分達の世代は日本文化について学ぶ機会が十分ではない。そこで、伝統的文化に触れることができる茶室空間で作法やおもてなしの茶道を体験することで日本文化への関心を高められるのではないかと考える。茶道の出張講座等での使用を前提とし、茶道を身近に体験できるよう、様々な場所に持ち運びができ、簡単に組み立て・収納式の茶室を提案する。

キーワード：茶道，茶室，組立式茶室，日本文化

1. 研究目的

私たちが改めて自国の文化を知るためには茶道を通して日本の美意識、おもてなしに触れ、身近に感じ、体験することで日本文化の関心を高めることができるのではないかと考えた。そこで、茶道出張講座を行うため人に向けた組み立て・収納ができる茶室を提案する。

2. 調査内容

2.1 日本人の文化に対する関心

全国 18 歳以上の日本国籍を有する者を対象に平成 27 年度から 1 年間に自分で作品を創作したり、習い事をしたり、あるいはボランティアとしてこれらの活動を支援するなど、文化芸術の直接鑑賞以外の活動をしたことがあるかのアンケートを調べたところ活動をしたことがない人大半を占めた。また、どうすれば鑑賞以外の活動にもっと参加しやすくなるかのアンケートでは、「初心者向けの活動が提供される」「住んでいる地域やその近くで活動に参加できる」など、もっと日本の文化を身近な存在にするべきであると考えた。

2.2 茶道の歴史・由来

茶道は中国から伝わったもので伝統的な様式に則り客人に茶を振る舞う行為である。亭主が客を招き、もてなしのためにお茶を立てる。また、茶道には、礼儀作法、茶を飲む器である工芸品、伝

図4 鑑賞を除く文化芸術活動の経験

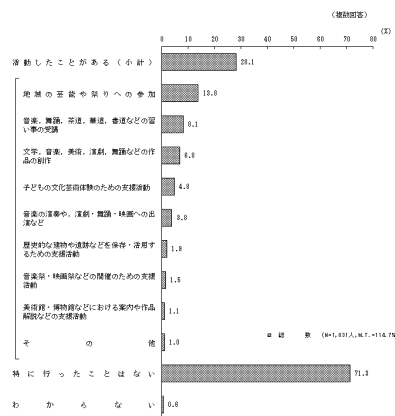


図1 鑑賞を除く文化芸術活動の経験

図5 鑑賞を除く文化芸術活動への参加の促進策

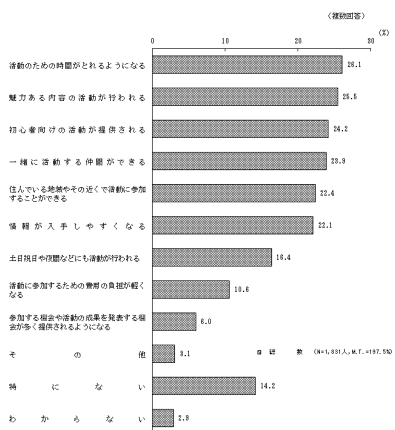


図2 鑑賞を除く文化芸術活動への参加の促進策

統的な茶室空間、掛け軸や茶室に生けられる花など非常に幅広い分野から取り入れたものがある。そのため、茶道を身近に体験することができれば

様々な日本文化に触れることができるのではないかと。茶室空間で茶道を体験するその行為が日本文化への関心を高めるのではないかと。

2.3 既存の組み立て式茶室

現在世の中にある組み立て式の茶室は大きく分けて三つのタイプがある。一つは一般的な組み立て式で、業者の人がダボやホゾといった木組みを組み合わせて立てるもので本格的に組み立てるため手間がかかる(図3)。二つ目は壁がなく畳だけを床に敷き茶道を行うものである(図4)。三つ目は屏風茶室である。壁が屏風になっているため畳を敷いて立て掛けるだけで簡単に茶道が行えるものである(図5)。



図3 屋根付き茶室

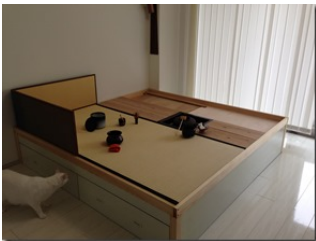


図4 茶室床タイプ



図5 屏風茶室

2.4 茶道出張講座

茶道出張講座を行っている団体を調査した。講座では茶道に使用する道具を持参しお点前を披露することが多い。畳を敷く場合もあるが、受講する側に畳を用意してもらうのが現状である。

3. コンセプト

「持ち運びが可能で簡単に組み立てて茶道が学べる茶室」をコンセプトにアイデアを展開していく。

- ・手で持つ、または車など車内に入るサイズ
- ・設置、収納が簡易にできる

- ・少人数かつ短時間で設置できる

4. アイデア展開

4.1 茶室全体のスケール

畳の数を三畳または四畳半、高さは最大2mから低くし、高さの検討を行う。今回は持ち運びができる茶室のため実際の畳は重いため使用しない。持ち運び可能なもので代用できるものを検討する。

4.2 簡易的に組み立て・収納

茶室を1人~2人で簡単に組み立てられるようフレームを組み立てる方法で茶室空間を表現する。現在検討しているのは竹を木組みのような方法でフレームにできないかを考えている。竹を使う理由としては昔から生活の中で箸や家財道具として多く用いられ、日本人には身近な存在であり、日本らしい素材かつ持ち運ぶ際に竹は軽量であるため。

4.3 茶室と外部の仕切り

茶室の壁となる素材は布・和紙を検討している。茶室と外部の空間は完全に仕切らず、透けた生地や紙を使用する。これらの素材を使うことで茶室空間の圧迫感をなくし、持ち運びや収納が楽になるため柔軟性のある素材を使う。また外からでも茶道を見学できるように透けた素材を使用する。

5. 今後の展開

現段階での最終案を実寸大で製作し、実際に設置にかかった時間や必要な人数などを調査する。竹と竹の接合方法もいくつか製作し改良を加えていく。竹以外の素材も検討していく。

茶室の壁となる素材、布や和紙の質感やデザインを検討していく。さらに、茶道の要素を洗い出し茶室に取り入れる要件を検討する。

6. 参考文献

- ・内閣府大臣官房政府広報室 世論調査 平成28年度

<https://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-bunka/index.html>

- ・和比×茶美：茶室とは、2016年、<https://wabi-sabi.info/archives/541>、2018年7月9日